

# 2022年3月13日(日曜日)の神戸新聞に 「松陽高校での講演」について掲載されました!

## 高砂

阪神・淡路大震災の被災者に贈ったパン2千食分の半分以上が廃棄されたのを教訓に、3年間保存できる缶詰のパンを開発した「パン・アキモト」(栃木県那須塩原市)の秋元義彦社長(68)が、高砂市曾根町の松陽高校で講演した。軟らかい生地が特長の缶詰パン約30万個を国内の被災地に送り、飢餓に苦しむアフリカにも届けた自身の挑戦を紹介。生徒に「夢を抱き、一歩踏み出そう」と語り掛けた。

(菅原次郎)

## 「夢へ一歩踏み出そう」

■ 栃木の製パン会社・秋元社長講演 ■

防災パン開発で縁 松陽高生に経験語る



目標や夢を持って挑むことの大切さなどについて話すパン・アキモトの秋元義彦社長(左手前)＝松陽高校

松陽高生は2019年、引き受けてもらった。今回野菜不足で便秘に悩む被災者はこの縁で講演が実現し災者を助けようと、食物繊維が豊富なブルーベリーを生地に練り込んだ缶詰パンを開発。製造法を確立していた秋元さんからアドバイスを受け、パンの量産も

生徒1人と交互に挑戦し、3回目で成功させた。やり方を見た生徒も5回目で成功し、会場から拍手が起きた。

これを受けて秋元さんは「やろうと思えばできるんです」と強調。自身が苦勞して開発したパンの缶詰についても「軟らかくて日持ちがするパンはできないと思っていた」が、やがて失敗を乗り越えて完成させられたと述べた。

5年ほど前に干ばつと飢餓に苦しむケニアを訪問。缶詰パンを子どもたちに手渡して喜ばれた様子を映像で紹介した。成功に欠かせない仲間の重要性も伝え、「頼み事を断らず受けていれば、自分も助けてもらえる。気楽に相談できるパートナーをどれだけ持てるかが鍵」と話した。今後は、ロシアに侵攻されたウクライナにもパンの缶詰を届けたいという。

ゴム風船への針刺しに成功した2年生田淵秋斗さん(17)は「自分も野球部での目標を決めて夢を抱き続け、実現できると信じてやっていきたい」と話した。